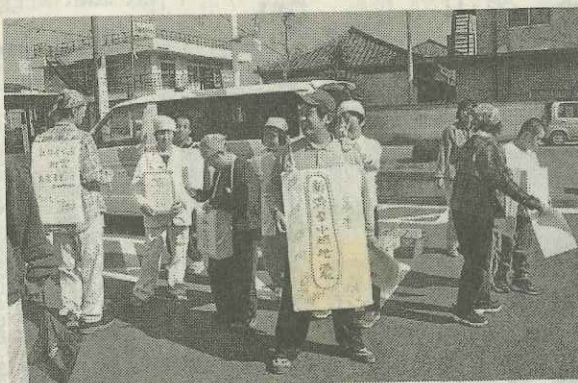


発行所 山久新聞店
 編集室 富岡市富岡1405-10
 電話 0274-63-7111(代)
 FAX 0274-62-0565
 発行人 下山裕久
 編集者 下山裕久
 次回発行予定日 12月1日

富岡で地震義援金活動 知的障害者が自発的に



富岡市の知的障害者授産施設「水土舎」(金谷透代表)の利用者で作る自治会が、新潟県中越地震の被災者に贈る義援金の募金活動に乗り出した。募金は富岡市に委託し、現地に届ける。施設職員の妻が新潟県

長岡市の実家に帰省中に被災したことから、自治会は緊急集会を開いて募金活動を決めた。障害者が社会から一方的に援助を受けるのではなく、障害者の側からも積極的な社会参画を促そうと、同施設では半年前から月一回の「十分講話」を実施しており、今回の活動は、「初の障害者からの自発的な社会参画」だといふ。

金谷代表は「障害者の自発的な活動を積極的に支援していきたい。目標の一カ月を続けられるかどうかが課題」と話している。問い合わせは水土舎 0274・64・1254。

新潟県中越地震 5 障害者施設に X' マスの贈り物 富岡の団体がきょう 富岡市の知的障害者授産施設「水土舎」(金谷透代表)の利用者で作る自治会と職員会は十五日、新潟県中越地震を機に交流が始まった被災地の知的障害者施設五カ所へクリスマスプレゼントを送る。卵のキムチ漬けやジャム、ソーセイジなど三十点約二万円分が詰められた五つの箱には利用者を書いたクリスマスカードも収められた。水土舎では被災地の知的障害者を励ます寄せ書きを作り、新潟県内の十五施設に送った。このうち五施設からお礼の返事があり、交流が始まったという。金谷代表は「相手から反応があるのがうれしく、障害者も熱心に取り組んだ」と話していた。

かぶら

10月29日、後賀にある知的障害者授産施設「水土舎」(金谷透施設長)から、「新潟県中越地震の義援金募金のお願い」と書かれたファックスが編集部に届いた。いつも、何かをしてもらうばかりの私たちが今回の地震に際し、

地域社会に積極参加 自分たちに出来ること



富岡市役所前で。熊井戸さん(右から2人目)



励ましの手紙

「十分講話」を行って、積極的に社会参画するよう啓蒙している。そうした中で行われた今回の募金活動に金谷施設長は、「地域社会に働きかける自発

的な行動でとても嬉しい」と笑顔をみせた。また、募金活動を行う一方、毎週木曜日、施設内で開かれる創作・表現教室(絵画・粘土)では、手づくり和紙を使い、被災した59の障害者福祉施設に激励の手紙を送っている。

富岡市役所前で募金を呼びかけていた熊井戸さんに話を聞いた。「テレビで地震をみて、すごくかわいそうに思った。お父さんに話したら、お金を出してくれた。道行く人が「がんばってね」とお金を入れてくれるとすごく嬉しい気持ちになる」と、満面の笑みをみせた。

事のはじめは、同施設職員の妻が長岡市にあり、帰省中の奥さんと四ヶ月の赤ちゃんが地震に遭遇、その事を知った施設利用者の熊井戸美枝さんが事の経緯を父親に話し、カンパを募ったのがきっかけだった。

水土舎では半年前から月一回、職員による「十分講話」を行って、積極的に社会参画するよう啓蒙している。そうした中で行われた今回の募金活動に金谷施設長は、「地域社会に働きかける自発